

fidata HFAD10-UBX の導入(13)

—MQA-CD 再生(2)—

1. はじめに

前報(10)に引き続き、MQA-CD 再生の音質を評価します。

2. fidata HFAD10-UBX の試聴情報

接続は、前報(1)のとおりです。

HFAS1-S10←HFAD10-UBX (to Host B 端子)

HFAD10-UBX (to Device for Audio A 端子) →Brooklyn DAC+

試聴対象の MQA-CD は、下記のものとしします。

ワーナーミュージック WPCS-28420

Beethoven 交響曲第 9 番「合唱」

フルトヴェングラー指揮バイロイト祝祭管弦楽団

ワーナーミュージック WPCR-28422

ブラームス 交響曲第 1 番

シャルル・ミュンシュ指揮パリ管弦楽団

ワーナーミュージック WPCS-28424

Elgar チェロ協奏曲他

ジャクリーヌ・デュ・プレ(チェロ)

バルビローリ指揮ロンドン交響楽団

ワーナーミュージック WPCS-28421

Berlioz 幻想交響曲

ミュンシュ指揮パリ管弦楽団

3. fidata HFAD10-UBX の試聴結果

今回の MQA-CD はすべてワーナーミュージックレーベルであり、Brooklyn DAC+ の表示は、UNIVERSAL MUSIC レーベルの MQA-CD では 352.8KHz となっていたのに対し、176.4 KHz となっています。

Beethoven の交響曲第 9 番「合唱」は、1951 年録音で、オリジナルレーベルは EMI という説もありますが、種々議論があるそうです。Brooklyn DAC+ の音圧レベル表示は、L/R 同一レベルですのでモノラル録音です。従って Brooklyn DAC+ で位相反転してもどちらが良いかは判定が困難です。レンジが狭く HiFi オーディオ的な意味での音質は期待できませんが、4 楽章のソリストの歌唱はモノラルらし

い力強さがあります。

ブラームスの交響曲第 1 番は、オリジナルは ERATO レーベルで 1968 年録音です。よく聴くドイツのオーケストラの演奏の重厚で渋い音に馴染んでいます。ミュンシュとパリ管では、やや派手目で色彩感が出ています。Brooklyn DAC+で位相反転しますと、定位が明瞭になり、重層的な音の濁りが薄れてきます。

Elgar のチェロ協奏曲は、1965 年録音で、オリジナルレーベルは不明です。デュ・プレのチェロの豪快で奔放な演奏が聴きどころです。Brooklyn DAC+で位相反転しますと、広がっていたチェロの音が中央に凝縮してきます。

Berlioz の幻想交響曲は、オリジナルは ERATO レーベルで 1967 年録音です。ミュンシュとパリ管らしく、切れがよく色彩感に富んだ演奏です。Brooklyn DAC+で位相反転しますと、定位が明瞭になり、個々の楽器の質感が捉えられやすくなります。

4. まとめ

HFAS1-S10 と HFAD10-UBX の組み合わせによる CD 再生は、これまでの HFAS1-S10 と PC 用ドライブと USB ハブの組み合わせによる CD 再生と一線を画すものです。古いステレオ録音のアナログマスター時代からの MQA-CD では、位相反転により、音の焦点があって定位も明瞭になります。モノラル録音からの MQA-CD では位相反転の効果の判定が困難でした。

以上